

杜の都だより

□「杜の都だより」は、東北事務所職員が、地元仙台もしくは東北地方を中心に地域の情報を発信するコラムです。

今年、仙台市内には大規模な商業施設が仙台都心、及び郊外にオープンしました。

仙台都心では、仙台駅に隣接する新幹線高架下を利用したエスパルⅡが6月に、また東北初となるパルコがエスパルⅡに直面する再開発ビルに8月オープンしました。それぞれの店舗面積は、2,800㎡、13,000㎡の規模です。仙台都心では、駅から離れた一番町通りに大規模商業施設が多かったのですが、駅前への新店舗進出により、都心内では仙台駅前 vs 一番町の様相を呈しています。

一方、郊外部へは大規模なアウトレットが2店ほぼ同時に進出しました。9月には仙台市東部の仙台港背後地に「三井アウトレットパーク仙台港」が、10月には仙台市北部に「仙台泉プレミアム・アウトレット」がオープンしています。仙台港アウトレットは、敷地面積87千㎡、述べ床面積34千㎡、120店舗、一方、泉アウトレットは、敷地面積75千㎡、店舗面積15千㎡、80店舗が入居しています。

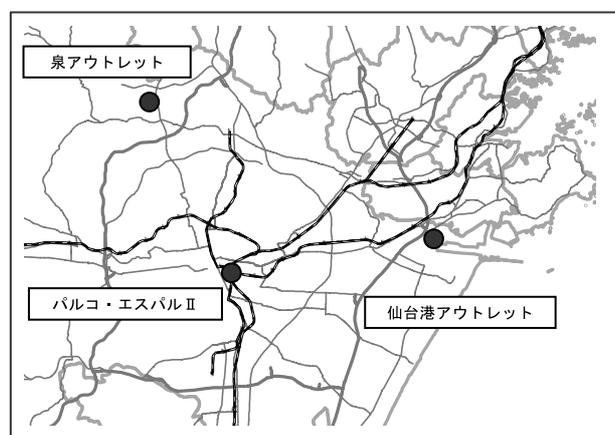


図 都心と郊外への商業施設立地

ともに、衣服、靴、バックやファッション雑貨など、20~30才の女性をターゲットとする商品構成のようです。両者の距離は約15kmと近いので、共倒れを危ぶむ声もありましたが、本原稿を執筆している11月初旬には「両者とも予想以上に好調」と報道されています。一方で、9月の仙台都心部の百

貨店売り上げは、対前年同月比で7.7%減と、東北平均の3.8%減に対し減少幅が大きく、郊外 vs 仙台都心の綱引きも加熱しています。

両アウトレットともに、マイカー利用が大半と想定されますが、仙台港アウトレットは港湾関連の物流交通との錯綜が懸念されます。また、泉アウトレットの進出した泉地区は、現在も休日のマイカーで混雑しており、更なる悪化が懸念されます。

仙台市では、公共交通の利用促進に向け様々な施策が実施、検討されています。仙台市交通局では、これまでにない新たな試みを始めていますので、ここに紹介します。一つは雨の日に特定のバス路線を増便する「レイニーバス」です。これは、天気予報で翌日の降水確率が50%を越えると、東北大と宮城教育大学の学生が利用する路線を増便する仕組みで、4月からの試験運行を経て9月に正式導入となりました。また、10月からは、学生向けに市バス・地下鉄を1ヶ月乗り放題とする「フリーパス」の実験も始まりました。バスのみで5千円、バス・地下鉄の場合は1万円です。これら施策の背景には、バス離れの中でも特に通学定期の落ち込みの大きいことが挙げられています。

また、通勤向けの公共交通利用促進策として、市バス・地下鉄の通勤定期の一括購入による割引制度も11月から始まりました。これは事業者が5人以上まとめて通勤定期を購入すると、5%が手数料として事業者に戻るもので、マイカー通勤を抑制する狙いもあります。

但し、これら施策は、仙台市交通局のみの実施であり、民間バス事業者やJRは参加していません。公共交通利用促進のためには、事業者が連携、協力していくことが必要と考えられます。

(東北事務所 西山 良孝)